



第18-141号

2019年3月29日

## 小田急小田原線 複々線化完成を記念したパブリックアート 大型陶板レリーフ『出会いそして旅立ち』を公開 ～出会いや旅立ち、賑わいを生み出す下北沢駅の新たなシンボルへ～

小田急電鉄株式会社（本社：東京都新宿区 社長：星野 晃司）は、2019年3月29日（金）、「小田急小田原線（代々木上原～登戸間）複々線化※1」の完成を記念した大型の陶板レリーフを制作し、小田急線下北沢駅改札内コンコース壁面に設置しました。

大型陶板レリーフ『出会いそして旅立ち』は、2018年度末の「小田急小田原線（代々木上原駅～梅ヶ丘駅間）連続立体交差事業および複々線化事業※2」の完了にあわせ、小田急小田原線代々木上原駅から登戸駅間（11.7km）の複々線化が完成したことを記念して制作しました。

レリーフのテーマは、小田急グループの経営理念で謳われている「かけがえのない時間（とき）」と「ゆたかなくらし」です。

本パブリックアートは、株式会社エヌケービー（本社：東京都千代田区、社長：外谷 敬之）の協力のもと、今年生誕100年を迎え、1957年に就役した特急ロマンスカー・SE（3000形）のカラーデザインや内装をはじめ、箱根、丹沢、江の島の観光ポスターを手がけるなど、小田急に深い関わりのあった作家 故・宮永岳彦氏の情緒ある原画をもとにしています。宮永岳彦氏の内弟子である宮永辰夫氏、小林敬生氏、日高康志氏の監修のもと、デザインされました。制作は、陶板レリーフやステンドグラスを主素材に45年にわたって500を超えるパブリックアート作品を作り続けるクレーレ工房（熱海・信楽）が行いました。

レリーフは、新しく生まれ変わった下北沢駅において、お客さま同士の素敵な出会いや旅立ち、そして駅周辺の賑わいの起点となる新たなシンボルを目指します。

※1 2018年3月3日より、線路を上下2本ずつの4線にする複々線での運転を開始しました

※2 連続立体交差事業は東京都が事業主体の都市計画事業です。当社の複々線化事業と一体的に行い、事業区間の立体化および複々線化の完成に加え、区間内にある下北沢駅の構築等により、2018年度末に完了します



大型陶板レリーフ『出会いそして旅立ち』の詳細については下記のとおりです。

## 記

設置日	2019年3月29日（金）
設置場所	小田急線下北沢駅 改札内コンコース （住所：東京都世田谷区北沢2-24-2）
規模	縦2.6m 横8.9m
原画・監修	故・宮永岳彦氏 内弟子3名 宮永 <sup>たつお</sup> 辰夫氏、小林 <sup>けいせい</sup> 敬生氏、日高 <sup>やすし</sup> 康志氏
題名	「出会いそして旅立ち」
陶板レリーフ制作	クレーター信楽工房（滋賀県甲賀市信楽町江田724） クレーター熱海ゆがわら工房（静岡県熱海市泉230-1）
作家プロフィール	故・宮永岳彦氏（みやなが・たけひこ）／洋画家 「光と影の華麗なる世界」と称される美人画や、ポスター、書籍の表紙画と装丁、挿絵、水墨画に及ぶ多彩な作品を残し、第一級の先駆的業績をあげた。 実家のあった秦野市にアトリエを構え、松坂屋百貨店銀座店宣伝部に勤務しながら1946年から15年間にわたり創作活動を続けた。1957年に就役した特急ロマンスカー・SE（3000形）のカラーデザインや内装をはじめ、箱根・丹沢・江の島などの旅客誘致ポスターも手がけるなど、小田急線との関わりが深い。1979年「日本芸術院賞」、1987年「勲三等瑞宝章」を受章。秦野を“ふるさと”として愛し、数多くの作品を残した。



以上